

一般質問



いの みやけん じ
二ノ宮健治
(由布市)

大分県長期総合計画の推進と、計画実現に向けた新年度当初予算での留意点について

昨年の第3回定例会で、10年後の2033年の大分県の目指す姿を描く大分県長期総合計画「安心・元氣・未来創造ビジョン2024」が可決された。

この計画では、「時代の要請や潮流の変化」として6つの項目が挙げられているが、その中で特に心配するのは、「想定を上回るスピードで進む人口減少」だ。

出生数の更なる減少に加えて、団塊世代の全員が後期高齢者に入ると、これまでの労働力を提供する立場から支援を受ける側になることから、労働力や介護施設の不足が深刻化することは目に見えている。



そこで、「時代の要請や潮流の変化」への対応を令和7年度当初予算案に具体的にどのように反映されたのか、併せて、ビジョン2024の推進に向けた知事の考えを聞く。

知事答弁

令和7年度は、ビジョン2024の実行元年として、計画の力強いスタート及び着実な推進に向けて諸政策を積極的に展開していく。

特に、指摘の「想定を上回るスピードで進む人口減少」は、計画での最重要課題と捉え、可能な限り抑制を図るため、自然増・社会増対策、持続可能な社会の構築などの施策を盛り込んでいる。「時代の要請や潮流の変化」をしつかりと踏まえた大分県づくりを進める。

平成の市町村合併20周年と旧町村部地域等の振興について

本県では、多くの市町村が合併20周年を迎える。20年を経過した今、県内どの合併新市も、当初の構想どおりにはなっていないように思える。

本県では、10年の節目に合併への検証が実施されたので、合併を強力に推進した県として、この検証で明らかになった課題の解決に向けて合併新市とどの

ような取組を行ってきたのか。また、合併新市における課題をどのように捉えているか、特に疲弊が著しい旧町村部地域等の振興に、どのように取り組んでいくのか知事の考えを聞く。

知事答弁

県内の旧町村部地域等においては、特に高齢化や人口減少が進んでおり、その振興のために3つを柱に取り組みを進めている。1つ目は、地域を支える生活交通の維持・確保。2つ目は、持続可能な地域づくり。3つ目は、農業の振興や企業誘致による雇用の創出などによる地域の元気づくりで、今後、市町村としっかりと連携し旧町村部地域等の振興に取り組む。

ふるふるパークの活性化について

ふるふるパークが、年間約40万人が訪れる県内でも有数の観光地となっている。そこで、農業振興を兼ねての県内の特産品を使った「ふるふる弁当(仮称)」の提供など、県の「食のメッカ」を目指す取り組みを提案したい。このことも含めた活性化策について部長の考えを聞く。

農林水産部長答弁

さらなる魅力向上や来園者の増加に向け、遊具のリニューアルなどを行い、親子で楽しめる



一般質問



よしむら なおひさ
吉村 尚久
(中津市)

健康寿命の延伸について

空間づくりを進める。食の充実に向け、オリジナル弁当の販売、キッチンカー、マルシェの出店増も進めるなど、観光資源としての磨き上げに取り組む。

大分県長期総合計画「安心・元氣・未来創造ビジョン2024」では、引き続き「健康寿命日本一」が掲げられていますが、昨年12月に公表された令和4年の本県の健康寿命の順位は、令和元年の男性1位、女性4位から、男性25位、女性10位と大きく後退しており、この結果は重く受け止める必要があると思います。また、平均寿命と健康寿命の差、いわゆる「不健康な期間」の値の令和元年か

ら令和4年の推移において、その差が拡大しており、健康寿命の延伸に向けてどのような取組を進めていくのか伺います。

知事答弁

県全体の健康寿命の延伸に向け、働き盛りの世代も含めた県民全体の健康意識の更なる醸成、健康アプリをリニューアルした新「あるとつく」を4月から本格稼働、高齢者の健康づくりに向け、通いの場の活性化を図ります。また、健康指標の改善を図る市町村への助成を拡充します。さらに「県民健康増進課」を新設するとともに、多様な主体と連携しながら男女そろつての健康寿命日本一を目指します。

外国人労働者の就業環境について

外国人労働者に選ばれる国、選ばれる大分県になるために、技能実習生が困ったときの相談窓口の強化等が重要であり、今後ますます外国人労働者に寄り添った施策が必要になってくる

